

### 607 躯体コンクリートに対するプラスチック製ピンの定着性

近年の外壁仕上げ層の補修・改修工法の基本的理念とされるキーワードに基づき、プラスチック製ピンを考案試作し、実験・検討を行い即ち公表した。さらにその定着力の向上を図ることを目的としてエポキシ樹脂注入によるアンカーピンの定着力の実験・検討を行った。

○河原崎広 吉田 晃 佐竹一哲 (ニチエー吉田株) 地濃茂雄 (新潟工科大学)

### 609 立体繊維材料を用いたコンクリート建物の外壁改修技術の開発

(その1 開発研究の位置付けと概要)

RCビル外壁改修工法のひとつに湿式カバー工法がある。この工法は一般的には新規仕上げ層と既存仕上げ層との接着を期待する。今回立体繊維材料を用いて新規湿式仕上げ層の剛性と耐力を強化することにより、接着が期待できない塗材等の旧仕上げ層を撤去しないで改修ができる工法を開発・研究した。

○谷川恭雄 (名古屋大学) 畑中重光 (三重大学) 長谷川哲也 (株)リノテックエンジニアリング) 中杉慎一 (株)INAX)

### 611 ALCパネル・タイル現場張り工法の研究 (その1 研究委員会の概略)

「ALCパネル・タイル現場張り工法の研究」は、「ALCパネル・タイル現場張り工法施工指針・同解説 (案)」の作成を目的として、社団法人 全国タイル業協会が日本建築士学会に調査・研究を委託したものである。

今回の一連の報告は、1994年9月に研究委員会が設置された後の調査・研究の中間報告であり、その1からその9までの9編からなっている。

本報告(その1)は、研究委員会の目的、経緯、組織、委員構成、調査・研究の内容等を示したものである。

今回の報告を通じて、会員諸氏から寄せられる意見、提言等をもとに今後も調査・研究を継続し、「ALCパネル、タイル現場張り工法施工指針・同解説 (案)」の作成作業を行う予定である。

○菊地雅史 (明治大学) 川辺伸二 (名古屋工業大学) 飯島守 山崎健一 (社)全国タイル業協会)

### 612 ALCパネル・タイル現場張り工法の研究 (その2 ALCの吸水調整方法に関する検討)

ALCパネルは多孔質のため、コンクリートやモルタルに比べて吸水性が高いため、タイル張りを行なう場合に、張り付けモルタルのドライアウトを招き強度低下を起こしたり、タイル張りの張付け可能時間を短くする等、タイル張り作業性に著しく影響を及ぼす要因である。このため、ALCパネルの吸水調整処理はタイル張りにとって重要な前工程である。本報告では、ALCパネル含水率の経時変化とともにALCパネルの吸水調整処理方法と吸水調整能力、及びタイル張付け可能時間の関係について調べた。

その結果次のような結果が得られた。(1)ALCパネルの含水率は、40~20%程度であること。(2)吸水調整材の塗布による吸水調整能力は、塗布されたポリマー量が多いほど大きく、タイル張りのオープンタイムも長くなる。(3)ポリマーセメントモルタルのしごき塗りによる吸水調整能力は、ポリマー濃度が高いほど大きい。

○山崎健一 (株)INAX) 河辺伸二 (名古屋工業大学) 永井昌志 (小野田エー・エル・シー株) 平松和也 (中部工業株) 能登谷恭一 (日本化成株)